



Referee Time

(審判だより79号)

2025.8.7

みなさん、こんにちは。今回は、2025年岡山県で開催された全国インターハイへ、知念昌平さんと新垣裕己さんが参加されてきました。お二人からの大会報告を紹介致します。

2025 全国インターハイ岡山県大会を終えて

8月2日(土)～6日(水)の4泊5日で、岡山インターハイの審判員として参加させていただきました。

女子1回戦(開催地)、男子2回戦2試合、男子3回戦、男子準々決勝の5試合を担当させていただき、学んだ点を下記にて報告いたします。



(1) レフェリーは選手と役員、観客へ「判定の基準」を伝えることができているか？

私たち自身過去最高の、1試合に2回の警告、10回の2分間退場を判定したゲームがございました。前半で基準を示したつもりで、後半はクリアになると自負しておりましたが、結果的に選手に基準を伝えきれず、後半に退場者が続出してしまい、レフェリーが目立ったゲームになり反省しています。

その際、副審判長の武智さんや2024-2025リーグH最優秀レフェリーの臼井さんからいただいたアドバイスが以下の通りです。

① ボディランゲージ(パブリックメッセージ)のみならず、言葉を上手く使って選手に伝えること(パーソナルメッセージ)

② 笛の「弱」の必要性、強弱があることで、許される行為と許されない行為がより際立ち、結果的にチームが基準を理解することにつながる。(弱を作ることで強を活かす考え方)

(2) たとえ適切な判定であっても、それがレフェリー独りよがりの判定になっていないかの視点(チームと観客は求めているか? ゲームエンパシー)

選手や役員、ハンドボールを観戦しているファンが求めている判定かどうかについて、本大会の指名レフェリー臼井&河合ペアの吹笛を観て学んだことが以下の点です。

① ゲームマネジメントが断然に上手い

安心・安全を前提として、チームの練習の成果を発揮させ、役員や観客に対しても最適かつ納得のいくジャッジをしている。

② 圧倒的に笛が少なく(強弱含め)、許される行為と許されない行為に対しての予防的行動を選手へ発信している。結果的に罰則が少なくなる(均衡している試合でも、選手と役員、観客が納得した魅力あるハンドボールゲームが展開されている)。

私たち自身、リーグHを経験させていただきながらも、高校ハンドボールの集大成を担当する責任と「重さ」を痛感した大会となり、学びが多い遠征でした。

派遣していただいた沖縄県の前上里審判長をはじめ、本大会審判長の北嶋先生や、大会を支えていただいた岡山県の役員の方々と高校生の補助役員に感謝し、報告いたします。

九州ブロック代表(沖縄県) 新垣裕己・知念昌平